

「女性医師の医療現場への復帰」

働きやすい病院評価・認証事業について

▼ イージェイネット紹介

当NPO（特定非営利活動法人 女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会）イージェイネット <http://www.ejnet.jp> は、二〇〇五年一月に内閣府に認証された法人で東京と大阪で設立登記している。二〇〇六年十一月一日現在、会員数三八九。個人会員の七〇％は女性医師で、三〇％をしめる男性会員は病院管理者がほとんどである。理念は、「国民のいのちの守り手である医師がその使命をまっとうできる環境をつくるために、学閥・専門領域・所属集団の利害を超えて、実効性のある戦略をもって、夢をかたちに变えていくこと」である。

具体的な活動としては、出産や子育てで第一線を退いてしまう女性医師の継続就労を支援する環境づくりをめざして、計三回の全国規模および地方会としての

シンポジウムを行ってきた。

▼ 組織としての進化

実際の活動を行っていくうちに、女性医師の「両立支援」の問題は、男性医師もふくめた医師全体の働き方として問い直す必要があるという認識にいたっている。女性医師のパートナーは同様に多忙な男性医師であることも多く、二十四時間体制ではたらくことを当然のように期待されている状況では、家事・子育てなど男性医師に協力してもらえないはずもないからである。

▼ 働きやすい病院評価・認証事業

当NPOでは今年度より、「働きやすい病院」医師・すべての医療従事者にやさしい病院」評価事業（ホス

イージェイネット 代表理事・ラ・クオール本町クリニック 院長

瀧野 敏子

ピレート <http://www.hospirate.jp>」を開始した。

■若年世代の勤労意識の変化・少子高齢化がすすむわが国では、労働力確保の意味からも女性の活用が喫緊の課題となっている。企業社会では次世代育成支援対策推進法にのっとり、両立支援に乗り出しており、日経新聞の調査では、両立支援は、「人材確保」および「企業の業績向上」に貢献しているという結果が出ている。

一方、女性医師のみならず「ワーク・ライフ・バランス」を重んじるのは男性研修医でも同様であり、二〇〇五年度の全国の研修医対象のアンケートでは九割以上が、医師不足の地域で働いてもよいと答えておりその条件は、「給与」と「休暇」としている。

■ホスピレート事業の意義・本事業は、病院に働く医師・看護師・事務系職員など男女全ての職員の「仕事と家庭の両立支援」をはかり、より働きやすい就業環境に向けてのインフラ整備の一助となることを意図している。人間らしい生活を保証する病院が良い人材を集めて生き残れるという流れをつくることを狙いとしている。いわば、本邦初の「従業員満足度評価（ES）事業」である。

■概要・女性医師（をふくむ病院職員全体）が安心して働けるかという観点から、イージェイネットが第三者評価をおこない、認証された病院に対して認定証を

付与する。五年ごとに更新。

■評価の流れ・資料請求↓評価申し込み・申し込み受付↓受審説明会↓書面審査↓現地訪問↓評価委員会↓評価・認証決定。

■評価委員は現在十二名で、医科大学教授、医療経済学者、企業経営者、医療系ジャーナリスト、医療専門弁護士、監査法人、事業評価会社、社会保険労務士、女性医師らから構成される。

■認証のベネフィット・①病院にとっては、優秀な人材確保。②医師にとっては、安定して働ける病院選びの基準。③患者にとっては、優秀な人材を擁する病院の選択基準。④人材紹介

■認証の特典・①ホスピレートのホームページに病院のPRを掲載。②イージェイネットがテレビ・新聞・雑誌等に「働きやすい病院」として推挙。③代表理事が医学部学園祭・研修医対象の講演で「働きやすい病院」として推薦。

■評価項目概要・①全体の方針・体制、②育児・介護全般、③育児保育、④介護支援、⑤復職支援、⑥キャリア形成支援、⑦啓蒙・PRなど

■評価のポイント・医療現場の現実をふまえた上での評価・認証であるので、ver.一では、労働基準法を遵守しているかどうかチェックするのではなく、病院長が、働きやすい病院に改革する積極的な意思を有

しているかどうかの評価のポイントになる。
■実績…二〇〇六年六月より事業を開始し、十月十六日現在、三病院が認証され、認証第一号は、大阪厚生年金病院（清野佳紀院長）、第二号は、聖隷三方原病院（荻野和功院長）第三号は、北野病院（山岡義生院長）。その他四〇病院から問い合わせがあり四病院が受審申し込みを済ませている。

▼大学病院の独立行政法人化とホスピタリティ

国立大学附属病院では法人化後に職員は国家公務員から民間人になり、労働基準法によって労務管理がなされることとなった。労働基準監督署が大学病院に対しても労基法遵守をもとめはじめている。今こそ「働きやすい病院」に変革するために、ホスピタリティを活用していただくチャンスと提案して、この稿を閉じることにする。

（大阪市立大学医学部 昭和五十六年卒業）

若狭国憲下関市の歴史と文化

代印・市立大学 昭和五十六年 今村 樹司